

太陽鋁工株式会社 会長・社長就任の御披露



安並正道氏御逝去



永年に亘りたつみ会の幹事長として御尽力を賜りました安並正道氏が昨平成三年九月九日急逝され、たつみ会一同深く哀悼の意を表す次第です。

同氏の御逝去を悼み御葬儀の際の御弔辞を転載させて頂きます。

弔辞

安並さんここに友人代表として、お別れのことを申し上げなければならぬことは、この上ない悲しみであります。

あなたのご逝去はあまりにも突然であって、今あなたのご霊

前に立ちながらも、なお実感が湧かないのはどうしようもありません。

あなたは私と同じ明治三十三年の生れ、同年齢で、私の最も尊敬し最も親しくしていただいた友人でありました。

あなたは大正十三年九州帝国大学工学部機械科をご卒業になり、鈴木商店に入社、英国ビッカーズ社に技術研修生として渡英、三年後の昭和二年神戸製鋼所造機部に入社されました。あなたは造機部の営業を担当され私は技術者として歩む道は異なりましたが、終生かわらない友情に結ばれておりました。あなたは神戸製鋼所造機部の逆境時代にあっても豊かな国際感覚によりアリスチャーマー社、ハーニッシュフィガ社等との技術提携を推進し、高砂の大阪造兵廠播磨製造所あとの買収の際にも、不屈の精神をもって当られそこに最新鋭の造機工場を建設され、神鋼造機部の中興の祖として内外の敬愛を集めておられました。

昭和二十九年神鋼パンテック株式会社の前身、神鋼ファウドラ株式会社設立にあたっては最初に米国ファウドラ社を訪問され、そのきっかけを作られ、種々の困難があつたにもかかわらず合併会社設立を推進、新会社設立後も非常勤取締役として経営に参画され有益かつ適切なアドバイスをいただくなど親身になってご援助をいただきました。米国ファウドラ社のプ

ルグラ―氏を始めとするトップの方々やマッカン・カメロン両技師他技術者の方々とも親交を結ばれ、来日時にはいろいろとお世話をされて外国の方々からも深い尊敬と友情を受けておられたことはいうまでもありません。

業界にあっても、日本産業機械工業会を中心に活動され昭和三十七年に藍綬褒章、昭和四十五年には勲三等瑞宝賞を受賞されましたことは、産業人として最高の名誉であると存じます。

その外にも社友会、辰己会、庚子会、七夕会、ロータリークラブ、県人会などの会合においても常に世話係としてその洗練された感覚と高邁なる人格でリードして来られました。

趣味としてはゴルフ、相撲観戦、日本舞踊などありますが、なかでも日本舞踊は大阪の毎日ホールでの関西財界名人会で踊られた「弁慶」は絶賛を博し、また播半、摩耶荘などでしばしば踊られた小唄「心して」は玄人はだしの絶品と花隈あたりの名妓からも拍手喝采を受けたものです。またゴルフでもあなたと故市川さんと三人で休日に広野へよく行きましたが勝ったり負けたり楽しいゴルフでした。

安並さん私はあなたと七十年になんとなす家族ぐるみのおつき合いをさせていただきました。私が昨年私の生涯をふり返った「製品開発にかけたわが半生」を出版した折にもあなた

弔 辞

本日ここに神鋼商事株式会社相談役 故安並正道殿の御霊をお送りするに当り、全役員ならびに全従業員を代表し、謹んで限り無い哀悼の意を込めて、お別れのご挨拶を申し上げます。

去る九月四日、当社役員OBで結成されております一水会にはお元気に出席され、皆様と楽しくご歓談されておられました。それから一週間もたたない、九月十日、当社の取締役会の席上、その相談役の突然のご逝去の報に接し、只々耳を疑い、生前の悠揚せまらぬお姿、慈愛に満ちたお言葉、万感胸に迫り、惜別の情を禁ずることができず、私は何をさておき、ご自宅にお伺いいたしました。

その時、安らかな相談役のお姿に接し、相談役がお亡くなりになられたのが現実のことと、信じざるを得ませんでした。

当日は、常々楽しみにされておられた辰巳会に出席され、ご帰宅後は来年の春場所の観戦を心待ちにされておられたほど、大好きな相撲をテレビで観戦され、しばしのご休息の後のお迎えであつた様にお伺いいたしております。お好きな相撲を楽しみながらのご逝去は、悲しみの中にも、せめてものなぐさめと

に序文を書いていただきましたがあなたの友情がひしひしとして行間ににじみ出て私は今更のようにあなたの温かいお心に感激いたしました。

奥様を二十数年前に亡くされるご不幸はありましたが、二人のご子息様も一人のお嬢さんも立派に社会人となっております。お心に残ることは何もなく天寿を全うされたことが慰めであります。しかし残されたご家族のお気持ちを思うとき、あと十年でも五年でも長寿を保っていた良かった思いで一ぱいでございます。

あなたは誠実で、約束は必ず守り、人格高潔な方でした。ここにあなたとお別れをするに当り、一人の生涯の友人として悲しみはつきませんがお別れのことばを申し上げます。

さようなら
どうか安らかに眠りください。

平成三年九月十二日

友人

神鋼パソテック株式会社

名誉相談役 花井 嘉夫

思っております。

相談役、あなたは明治三十三年四月、高知県に生を受けられ、大正十三年九州帝国大学工学部機械科をご卒業後、鈴木商店に入社され、三年後の昭和二年五月に、株式会社神戸製鋼所に入社、主として機械畑を歩まれ、常務取締役、専務取締役をご歴任されました。そして、昭和三十七年五月には、産業機械工業会への多年のご貢献により、藍綬褒章を受賞されております。その後、昭和三十九年三月に、神鋼商事株式会社第四代取締役社長にご就任されました。当時、日本経済は高度成長が漸く緒についた段階で、産業構造問題や企業再編成論議が彷彿している時期でありました。この時に社長に就任されました相談役は、この時局を乗り切るべく、早々に事務の合理化と、社内機構の改革を打ち出されました。特に、社内機構の改革につきましては、大阪と東京の営業を縦割りにし、各商品毎の販売責任体制である営業本部制を実施され、この機構は、今日にも、脈々と受け継がれております。

六年九ヵ月の社長ご在任中に、年商六百三十億円、資本金十億円の二部上場会社から、年商一千五百五十億円、資本金二十二億五千万円の会社に躍進させられたのであります。その間、昭和四十三年八月には証券市場第一部への上場をはたし、神鋼

商事を神鋼グループの中核会社の一翼を担う、存在感のある会社にまで育てあげられました。昭和四十五年の万博のテーマである「人類の進歩と調和」について共感を覚えられ、当時の社会情勢に照らして、進歩には調和を伴うことが如何に大切であるかを我々に説かれ、経営の理念にされておられました。

昭和四十五年四月には産業機械の製造技術の向上、輸出の増進に務め、日本産業機械工業会の役員として業界の発展に貢献されたご功績により、勲三等瑞宝章を授与され、また、生前のご功績に対し、この十月には正五位に叙せられました。

昭和四十五年十一月取締役社長をご勇退され、相談役にご就任後は、当社は勿論のこと、神鋼グループのご長老として、私達に数々のご教訓をお授け下さり、持って生まれた趣味の多才さと、絶ゆ間ぬ研究向上心を遺憾なく発揮されておられるお姿は、私達の尊敬の的でありました。特に、ご健康には気を遣われ、つい先頃までゴルフに親しまれ、一水会の昼食会には勿論、ゴルフ会にも必ずご出席され、二廻り以上も若い後輩の方々と、しばしば五角以上のスコアで回られておられました。

昭和六十二年には、米寿のお祝いを迎えられ、ご家族の皆様からのお祝いの宴を賜られたことをそれは嬉しそうにお話しをされておられました。

平成3年4月18日 日経新聞夕刊

海鳴りやまず

速水 優

総合商社というのは日本型資本主義が生んだ組織の傑作だと思う。他国でも同様の機能をもった企業を育成しようとしているがなかなか成功していないようだ。このユニークな組織がいつたいどのような誕生し、発展したのかは学者でなくとも興味をそそられるテーマだと思う。

三井・三菱といった財閥の歴史はよく研究されているが、同じ明治・大正にかけて一介の砂糖商から急成長し、大正六年には年商十五億円を超える日本一の商社となつた鈴木商店の歴史はユニークであり、示唆に富んでいる。

第一次大戦のさなか、鈴木は船は世界の港を駆けめぐり、いまだいう外国間取引を含めたグローバルな活動を縦横無尽に行った。このとき鈴木の大番頭金子直吉は、

また、当社の社長在任中に入会された大阪ロータリークラブには毎週金曜日、欠かさずご出席され、その活動にも多大な貢献をされておられたと伺っております。

相談役のご意志を継がれ、ご子息様、ご令嬢様も社会人として、立派にご活躍されておられます。どうか、今は亡き奥様のもとで安らかにおやすみ下さい。

相談役が常々申されておられました「進歩と調和」という言葉を、私共は受け継ぎ、全社一致団結して、社業発展のため邁進することを、ここにお誓い申し上げ、弔辞といたします。

平成三年十月八日

葬儀委員長

神鋼商事株式会社

取締役社長 市川 明

ハウが少なからず役立ったのである。

金子直吉は米騒動のあおりで神戸の本社を焼き討ちされた夜、焼け跡に立って七つの海に思いをはせ、昂然（こうぜん）として「海鳴りやまず」と叫ぶ。これは亡くなった花登匡脚色の金子直吉の生涯を描いたドラマのクライマックスだが、その言葉は今に生きています。（日商岩井会長）

平成3年2月20日 読賣新聞夕刊

残すより使いたい

大谷 一二

今でこそ付き合いで新札を持ち歩く必要があり、財布を持っていますが、若いころはお札も、小銭も、ポケットに突っ込んでいました。自分で銀行に行ったこともありません。

休みの日は思い切りカジュアルな格好をして、そのへんにあるカネをつかんで、出掛けます。

ネクタイなど気に入ったものがあれば衝動買いします。目的を

持つて買い物に出ることもなく、自分で買うのは身の回りのものくらいで、家財道具などは家内にとんと任せっきり。

家内が留守の時は自分で台所に立ち、材料もスーパーなどへ買いに行きます。品物によって店を決めています。目が悪いので、買い物をする時も値札は見ません。一線を退き時間ができてからのことですが、大いに人生を楽しみたい。カネは使つてこそ生きる。カネを残して死んでも仕方ない。財産を当てるような子供は大谷家から出て行けと言っています。（東洋紡相談役）

平成3年11月10日 朝日新聞朝刊

『文学の風景（兵庫探訪⑦）

「鼠」―城山三郎―より

鈴木商店の軌跡追う

曇り空から薄日がさしている。